

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立桜台小学校

教育目標		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進 ②豊かな人間性を育てる心の教育の推進 ③健やかな体の育成と健全な食生活の推進 ④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実 ⑤教育環境の整備・業務改善と学校安全の充実						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に2回程度のさくらタイム(放課後学習) ・朝学習で、定期的に学力補充を進める。 ・漢字小テスト、算数タイムを定期的に実施する。 ・授業力を高めるため、授業を公開し、授業研究を行う。校内研修(さくらカフェ)を定期的に行い、指導力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程部を中心に朝学習・えんびつタイム・さくらタイムを計画的に実施し、学力補充に努める。 ・漢字小テスト、算数タイムを年間30回以上する。 ・年3回の校内研修を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習・えんびつタイム・算数タイム・さくらタイム(放課後学習)をとおり、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。 ・算数部・国語部を中心に評価テストの見直しを行い、学力保障に努めた。 ・年4回の校内研修、および、タブレット研修を実施し、教職員の授業力向上を推進できた。 ・「わかる」「できる」実感を得られる場面(授業の山場)についての取り組みが進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、朝学習・えんびつタイム・算数タイム・さくらタイムを継続させる。 ・学習に不安のある児童と向き合う時間を増やしていく。 ・これまでの成果をもとに、来年度は主体的な学びに重点を置いて研究を進める。 ・引き続き、見方・考え方を獲得する場面での話し合いを取り入れた授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の視点から7の授業改善の重視(2020年度から開始)が順調に取り組まれ、自己評価Aにつながったと思う。困難な課題への取組に感謝します。 ・具体的施策で行われている事はとても良いと思います。 ・「まとも」「めあて」「振り返り」の意識はとても重要だと思います。学年が上がるにつれ、難しくなる内容もふりかえる機会を作り、基礎がわかると難しくなった内容を理解できる子が増えると思います。課題、改善策とてもよいと思います。 ・コロナ禍の下、これからの義務教育を考え、集団教育について全職員で議論できる場が設けられることを願っております。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。 ・単元の中で、ペアや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場面を設定する。 ・朝学習での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、年1回の「読書週間」の推進、学級文庫の充実により読書習慣作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや授業の振り返りの記述、発表の内容などに、考えの深まりが見られる。 ・授業の中で、ペアトークを取り入れる。 ・児童アンケート「本を読んでいる」の回答で、週1時間以上読んでいると回答する割合が80%以上になる。また、保護者アンケートの「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が80%以上になる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや新聞などの書く場面を発達段階に応じて授業に取り入れることができた。 ・どこでペア活動を取り入れることが有効かを考え授業に取り組むことができた。 ・読書週間、朝読書、市の図書館からの貸し出しなど読書指導に努め、本の好きな子どもは多い。しかし、1週間に1時間以上本を読んでいると回答した子どもは45%にとどまっている。また、保護者も「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が66%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張・理由・根拠を大切に、他者を意識して交流ができるような取り組みを進める。 ・朝読書の充実、読書週間の増加、週末に読書の宿題を出すなど、読書の習慣作りに努めていく。 ・学期ごとに読書週間のねらいをしぼり、ゆったり取り組めるよう読書月間も取り入れる。 ・図書館からの配架の充実を図るとともに、学期ごとに学年で学級文庫の交換を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とても難しい項目と感じています。 ・単語での発表をした子ども、とても頑張った発表がみられました。その子は文字や絵ならとてもよい表現をするかもしれません。いろいろな経験することで、いろいろな仲間がいることを感じ、皆が成長することを願っています。 ・読書が好きでない子の興味を持つきっかけになるよう改善策の内容で良いと思います。 ・長年にわたり学校図書の実践や加配教諭の配置を伊丹市予算で実施していただいたが、根付かず誠に残念。NIEの推進に対しても新聞購読の家庭数の減少の現実がある。 ・家庭における読書週間というおおきな課題が横たわっている。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板や実物投影機、タブレット等のICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。 ・さくらノートを活用し読書を含め、家庭学習の目標時間低学年30分、中学年60分、高学年90分を達成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が85%以上になる。 ・電子黒板、実物投影機、タブレット等を各教科の中で効果的に活用する。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生は教え方にいろいろ工夫している」と答えた児童は90%を超えている。 ・全職員がICT機器を教室に置く等、積極的に授業で活用することができている。 ・全クラスで、タブレットを使った効果的な授業に取り組むことが課題である。 ・家庭学習については、低・中学年は目標時間を達成しているが、高学年 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、ICT機器の活用に努める。 ・年度初めに講習会を開き、新しく来た先生がPCルームやタブレットをスムーズに使えるようにする。 ・家庭学習については、懇談などを通じ、取り組む良さや必要性を伝えていく。また、課題内容の充実にも努め、保護者には、引き続き、サインの徹底を呼びかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のほとんどが子どもの頃タブレットの経験がないため、どのようなことが行われているか、家庭でどのような事をすれば良いかとの思いを聞く。保護者もICTに触れるきっかけとして、ZOOMなどを利用し、授業風景などを配信するの面白いと感じます。 ・保護者が課題をチェックサインすることはとても良いことだと思います。 ・一人一台の端末利用活用に向け、モデル授業や研究会により、教師レベルによる差異を少なくしてほしい。

豊かな心・健やかな体	不登校への対応	・不登校児童の未然防止に努める。	・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への粘り強い働きかけを行う。	・教職員アンケート「1日目の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」と回答した割合が85%以上になる。	A	・1日目の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行うと回答した教職員が90%を越えている。 ・「自分を大切にすることや他人への思いやりについても教えてもらっている」と答えた児童は90%以上であった。	・家庭とのつながりを深めるとともに、ケース会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を見極める。 ・不登校対応マニュアルを作成し、個に応じた具体的な対応を行う。 ・不登校児童への組織的対応について今後も考えていく。	・朝起きられない親、子どもに対する処置は教職員が行うべき業務とは思えない。学校ボランティア(不登校対応)などを創設、依頼し、社会対応ができれば良い。 ・様々な家庭があると思います。とてもよい対応と感じます。
	豊かな心の育成	・道徳の授業をはじめ、いろいろな場で違いを大切にしたい児童理解に努め、違いを認めあえる子どもを育てる。	・各学期はじめの月を「あいさつ月間」と位置づけあいさつ運動に取り組む。 ・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。	・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「命をたいせつにすることやいじめやいたずらをされた人の気持ちを考えていますか」と回答する割合が85%以上になる。 ・教職員アンケートにおいて「インクルーシブ教育について、職員間で共通理解し、各自の立場で推進している。」と回答した割合が80%以上になる。	B	・「先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答する割合が87%であった。代表委員会が積極的にあいさつ運動を行った。また、管理職や専科の教職員が登下校時にあいさつ運動を毎日行った。 ・「命を大切にすること、いじめやいたずらされた人の気持ちを考えています」と回答した児童は90%以上であった。 ・特別支援教育部を中心に、インクルーシブ教育を推進し教職員アンケートで「共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合は80%を下回った。 ・毎月の特別支援教育部会、各学年から報告された児童の情報をデータ化し、全教職員が閲覧できるようにしたことで共通理解が図れた。 ・特別支援学級の自立活動の学習の様子を便りに載せて発行してもらい、全教職員にその様子がよく伝わった。	・さらに、あいさつの大切さを提示し、地域にもあいさつができるよう推進に努める。 ・アンケートの結果や児童の様子を注意深く観察して、児童理解に努める。 ・児童についての報告は、必要に応じて職員会議後の時間を利用して、全職員に共通理解を図る。 ・個別の指導計画の書式をより記入しやすく活用しやすいものに変更していく。 ・特別支援教育研修会の内容の一つに「ステップ☆ぐんぐん」を考える。	・旗当番をしている時に小学生より中学生に元気を感じた。挨拶運動で門に立つと、挨拶をしてくれる。桜台フェスティバルでは「ありがとう」と皆ちゃんと挨拶していた。学校にいる安心感を感じました。知らない人との距離感はこの程度必要かもと感じました。 ・児童の挨拶の習慣が他校より秀でていない。隣接校では驚くほど挨拶してくれる。大人に対する警戒感が強いのかもかもしれない。 ・インクルーシブ教育については、地域性からか親子ともに排他的の行為や思想は少ない。良きところは伸ばし、悪しきところは改めていきたい。(子どもも大人も同じ) ・インクルーシブ教育について、施策、課題、改善策とても良いと思います。
	体力の向上	・生活の中で自ら進んで運動に親む児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。	・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。 ・授業の中でなわとび運動を実施する。 ・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。	・各学年でなわとびの達成目標を設定する。 ・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答する割合が80%以上になる。	B	・スポーツテストの結果、体力の低下傾向が見られた。 ・「運動能力や体力の向上を図り、粘り強い児童の育成に努めた」と回答する教職員は85%を下回った。 ・児童は、進んで耐寒運動に参加することができた。 ・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答した割合は80%以上であった。	・スポーツテストの結果を踏まえ、サーキット運動を、授業の中に取り入れていくなど、運動能力や体力の向上について取り組んでいく。 ・体力向上について意識を高めるために啓発を行っていく。サーキット運動についての研修会を行う。 ・ラダーを設置するなど、サーキットが実施しやすくなるよう設備を増やす。 ・児童の意欲が継続するように、記録の掲示・発表をしっかりと行っていく。 ・外遊びに親しむ態度を育てるた	・多くの子どもたちは外で体を動かすことは好きだと感じます。しかし、小さな公園での子どもの姿は少なく感じます。 ・知育、徳育、体育の3本柱で教育の根幹を形作るものですが、桜台小学校には各方面の専任が不明である。 ・施策、課題、改善策とても良いと思います。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な機会を通して、積極的に学校情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・懇談時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを定期的に更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに答えている」と回答した割合が90%以上となる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信(学校だより)の発行、ホームページの更新は十分にできたと考ええる。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信することができた。 ・ホームページの学年のページは、年5回の更新を徹底することができた。 ・「学校は保護者の願いに答えている」 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視点で発信することで、保護者の関心を高めたい。 ・今後も継続してホームページの更新は続けていく。 ・学年HPの更新回数について制限をなくし、更新頻度を上げる。 ・保護者と日頃から連携を密にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校運営や学校・家庭・地域の意識付けなどにおいては紛れもなく先進地域である。望まれる姿は、学校教職員が参加し、地域特性を広く知ってもらうことである。 ・施策、課題、改善策ともよいと思います。
	安全安心な学校作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの危機対応能力や災害に応じた対応力を育てる。 ・学習環境の管理・整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。(年2回) ・防犯訓練(不審者)を実施する。(年1回) ・引き渡し訓練を実施する。(2年に1回・昨年度実施) ・安全点検を行う。(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している。」と回答する割合が80%以上になる。 ・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答する割合が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」と回答した保護者は97%であった。 ・避難訓練実施が遅くなった関係で、児童に不審者が来た時の「竹垣さんが〇年〇組に来られました」という放送を知らせる時期が遅くなった。 ・交通安全教室は今年度は3～5年生対象に教室で送付される資料を基に指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、年度当初、避難経路をクラスに掲示する際に、不審者来校時の放送についても児童に周知徹底させることとする。 ・交通安全教室は、来年度から3年生対象に実施することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内17校で集団登校や旗当番が運用、実施されているのは紆余曲折の中で本校だけだと思ふ。維持継続は大変な苦労だとは思いますが、やめると再開は至難です。継続を希望します。 ・施策、課題、改善策ともよいと思います。

学校関係者評価総括

- ・コロナの影響がとても大きな例年どおりではない中で、色々と本当にお疲れ様でした。
- ・昨年の3月3日から臨時休校となって以来、集団教育、義務教育の場として取り組まれてきた学校管理者、学校教職員の皆様のご尽力には頭の下がる思いです。そのような災厄を乗り越えて、無事に卒業生を送り出されたことに、祝意、敬意を惜しみなく送ります。多くの重点目標も例年どおりやり遂げられたこと、そして、その努力に拍手を送ります。その間、地域活動はコロナウイルス感染拡大防止のため、行事中止を余儀なくされました。残念ですが、一番大切なことは感染者を拡大しないことです。第4次感染拡大期の中、そして次ぐ第5次感染拡大期を控え、安全安心な学校運営にご尽力をお願いいたします。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・学力向上について、基礎的基本的学力の向上・定着に向け、朝学習の取組を充実させる。また、思考力・判断力・表現力の向上や主体的な学びの実現に向け、研究テーマを再設定し、授業改善に取り組む。
- ・不登校の改善に向け、現在の状況の改善に加え、児童や保護者の思いを把握し、関係機関とも連携しながら、新たな不登校を生まない取組を進める。
- ・学校だより、HPなど様々な方法で学校の様子を保護者、地域に発信し、教育活動に対して理解を協力を得る。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った